

海外の畜産物の需給動向

牛肉

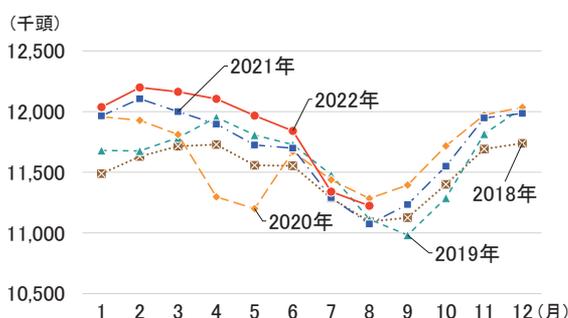
米国

22年上半期の牛肉輸出量は過去最高を記録

フィードロット飼養頭数は依然高水準

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) によると、2022年7月のフィードロット導入頭数は176万5000頭（前年同月比1.8%増）とわずかに増加し、出荷頭数は182万5000頭（同3.9%減）とやや減少した。この結果、22年8月1日時点のフィードロット飼養頭数は1122万4000頭（同1.4%増）となり、8月としては20年に次ぐ高い水準となっている（図1）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」
注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注2：各月1日時点。

中でもテキサス州は、導入頭数が同6.8%増となり、全米の導入頭数の増加をけん引している。特に体重600ポンド（272キログラム）未満が同19.4%増、600~699ポンド（272~317キログラム）が同6.3%増となるなど軽量級の導入牛が多くなっている。これは、

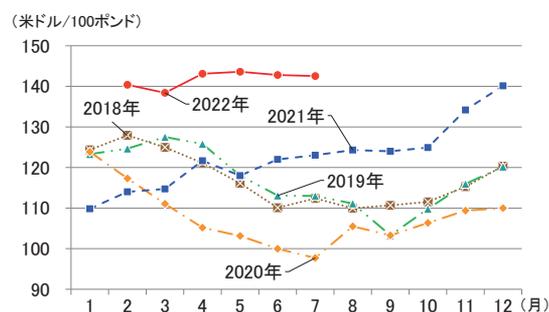
南部平原地帯の干ばつが要因と考えられる。

堅調な肥育牛価格は今後も続く見込み

米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) によると、2022年7月の肥育牛価格は前年同月比15.8%高の100ポンド当たり142.53ドル（1キログラム当たり438.75円：1米ドル=139.63円^(注1)）と堅調に推移している（図2）。この状況についてUSDAは、一般的に早期と畜が行われているため体重が軽い牛が多く、肥育牛の価値が高められたことに加えて、ボックスド・ビーフ^(注2)の価格が比較的安定していることが要因としている。また、この状況が続くことで肥育牛価格は今後も堅調と予想している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。
(注2) 食肉加工業者から卸売りまたは小売りへ出荷する段階の箱詰めした部分肉。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

好調な輸出は主に中国がけん引

USDA/ERSによると、2022年6月の牛肉輸出量は14万2868トン（前年同月比15.2%増）と前年同月をかなり大きく上回った（表）。これにより、22年上半期（1～6月）の牛肉輸出量は80万9986トン（前年同期比7.4%増）となり、上半期の輸出量としては過去最高となった。

輸出先別に見ると、上半期で最も輸出量が増加したのは中国向けで、同35.9%増となった。中国では、6月上旬まで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により一部の

都市でロックダウンが行われたものの、この間の牛肉需要への影響は見られず、米国の輸出量増加に大きく寄与している。また、台湾やフィリピンを含むASEAN諸国などへの輸出量も増加しており、これらの市場からの需要が高いことも、好調な輸出を後押ししている。米国産牛肉の輸出は、国内相場の上昇に加え、輸出競争力を低下させるドル高の為替にもかかわらず堅調に推移している。この状況についてUSDAは、豪州やニュージーランドなど主要輸出国からの牛肉供給が限られている中で米国産牛肉の需要が高いことを要因としている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	2022年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	28,822	34,009	18.0%	27.4%	184,848	▲0.2%
韓国	27,115	31,322	15.5%	25.3%	188,805	4.0%
中国	22,516	26,976	19.8%	21.7%	142,169	35.9%
カナダ	10,312	10,788	4.6%	8.7%	61,615	▲0.2%
メキシコ	9,575	9,214	▲3.8%	7.4%	59,843	▲16.5%
台湾	8,547	8,049	▲5.8%	6.5%	52,240	26.8%
香港	3,705	3,411	▲8.0%	2.7%	15,088	▲49.5%
フィリピン	1,520	2,909	91.3%	2.3%	12,054	25.0%
その他	11,919	16,192	35.8%	13.1%	93,324	36.0%
合計	124,032	142,868	15.2%	115.2%	809,986	7.4%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

豪州

牛肉輸出量、日本向けは米国産に押され大幅減

肉牛取引価格が反発、上昇傾向に

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年8月に

入り、下落傾向から一転して上昇傾向となり、同月23日時点では1キログラム当たり1037豪セント（1007円：1豪ドル＝97.14円^{（注1）}）と昨年同時期の水準まで戻し

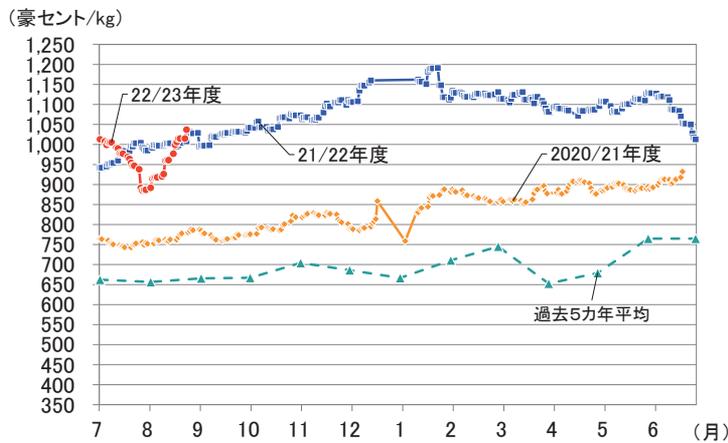
た（図1）。

現地報道によると、インドネシアで発生している口蹄疫が豪州国内へ侵入するとの懸念が高まる中で、投機的な動きや穀物価格の上昇などもあったことで、7月までは下落傾向で推移していた。しかし、8月は前月までの

下落傾向の相場を考慮した売り控えの動きや、依然として雨が多く飼料供給も潤沢なことで牛を留保する傾向もあり、肉牛の供給が滞っていることが価格上昇の要因としている。

（注1） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

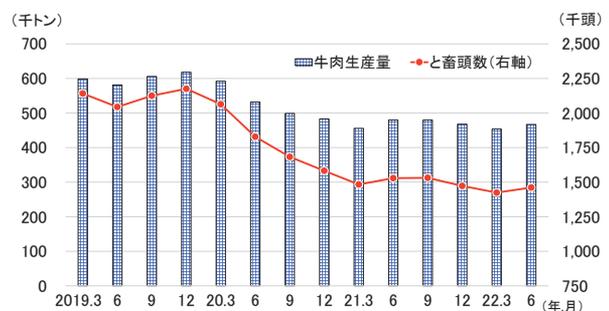
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

と畜頭数と牛肉生産量は増加傾向に転換

豪州統計局（ABS）が2022年8月に公表した統計によると、同年4～6月期の牛と畜頭数は146万頭（前期比2.5%増）と同年1～3月期までの減少傾向から一転して増加に転じている（図2）。この結果、牛肉生産量は46万6700トン（同2.9%増）と同様に増加に転じている。

近年、と畜頭数に比べ、牛肉生産量が多くなっている要因として、1頭当たりの平均枝肉重量が増加していることが挙げられる（図3）。豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、多雨により飼料確保が容易なことや国内の牛群全体の遺伝的改良が進展してい

図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。

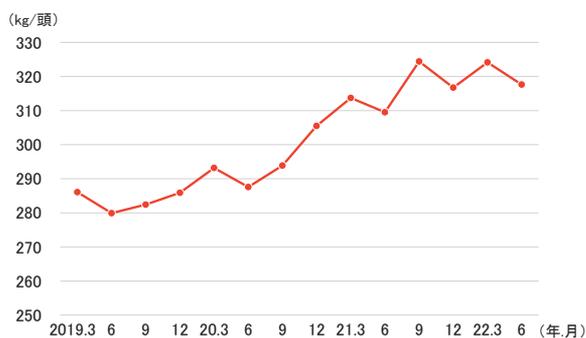
ること、また、フィードロットによる肥育管理が適切に行われていることなどから、平均枝肉重量が高く維持されているとしている。

豪州フィードロット協会（ALFA）によると、22年4～6月期のフィードロット飼養頭数は、119万5466頭と前期から7万

4461頭減少したが、フィードロットの稼働率は81%と依然高い水準になっている(注2)。

(注2) 海外情報「2022年6月末のフィードロット飼養頭数、過去3番目の高水準(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003358.html)を参照されたい。

図3 平均枝肉重量の推移



資料：MLA

牛肉輸出量は再び前年同月比減

豪州農林水産省(DAFF)によると、2022年7月の牛肉輸出量は7万4949トン(前年同月比7.7%減)とかなりの程度減少

し、2カ月連続の前年同月比増から再び減少に転じた(表)。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは1万8551トン(同23.3%減)と大幅に減少しており、22年1~7月の累計でも12万7060トン(前年同期比6.6%減)とかなりの程度減少している。現地報道によると、豪州からの牛肉供給不足に加え、米国の干ばつによる牛群整理のため、米国産の穀物肥育牛肉が日本に多く流れているためとしている。

韓国向けは1万5012トン(前年同月比7.2%増)とかなりの程度増加しており、1~7月の累計では8万5997トン(前年同期比4.6%減)とやや減少している。MLAによると、韓国政府は本年7月20日から年末まで、国内のインフレ対策として10万トンの輸入牛肉の枠内関税を0%に引き下げており、豪州の牛肉輸出業者にとって輸出を伸ばす大きな機会になるとしている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 7月	2022年 7月	前年同月比 (増減率)	2022年 (1~7月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
日本	24,199	18,551	▲ 23.3%	127,060	▲ 6.6%
韓国	14,006	15,012	7.2%	85,997	▲ 4.6%
中国	12,279	12,533	2.1%	85,611	1.4%
米国	13,875	11,756	▲ 15.3%	70,517	▲ 10.9%
東南アジア	8,813	9,092	3.2%	50,477	▲ 11.2%
中東	2,269	2,224	▲ 2.0%	15,340	▲ 10.2%
EU	711	880	23.7%	4,682	0.9%
その他	5,018	4,901	▲ 2.3%	33,741	▲ 4.1%
輸出量合計	81,171	74,949	▲ 7.7%	473,424	▲ 6.0%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル=ハイマ)の合計。

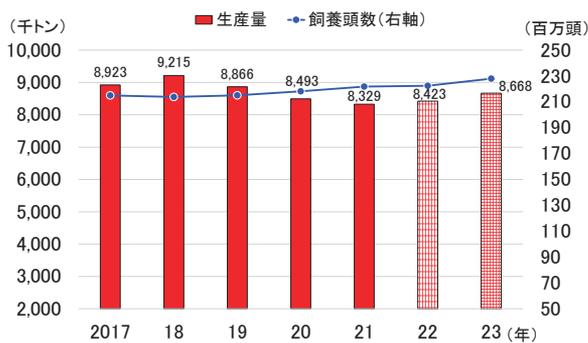
(調査情報部 国際調査グループ)

22年牛肉輸出量は前年を大幅に上回って推移

22、23年の牛肉生産量、増加の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2022年8月24日、22および23年の牛肉生産量予測値を公表した。これによると、22年の牛肉生産量は842万3000トン（前年比1.1%増）、23年は866万8000トン（同2.9%増）と2年連続での増加が見込まれている（図1）。

図1 牛肉生産量および牛飼養頭数の推移



資料：CONAB

注1：2022年は見込値、23年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

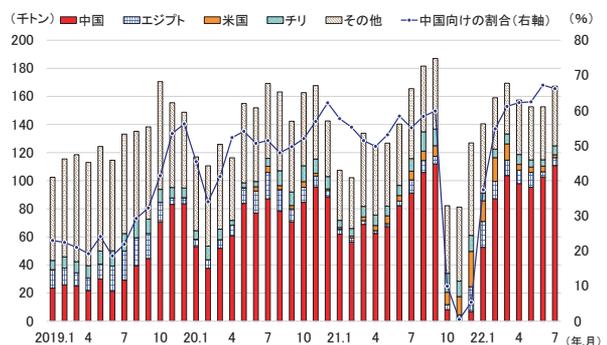
ブラジルでは、18～19年にかけて旺盛な牛肉需要に対応するため多くの雌牛がと畜に回されたが、20年からは生産者が牛を保留し牛群再構築の方向に転換した結果、20～21年のと畜仕向けの頭数が減少した。22～23年は、一定数の牛が確保されている中で、堅調な海外需要を背景にと畜頭数は回復するとみられる。なお、牛飼養頭数においても22年は2億2246万頭（同0.3%増）、23年は2億2796万頭（同2.5%増）と増加が見込まれている。

22年1～7月牛肉輸出量、前年同期比21.9%増

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2022年1～7月の牛肉輸出量は109万8862トン（前年同期比21.9%増）と前年同期を大幅に上回った（図2）。21年は、9月4日に国内で非定型BSEの発生が確認されたことで、中国向けなどに輸出制限措置が講じられたため、一時的に輸出量が大きく落ち込み7年ぶりに輸出量が減少したが、22年になると中国向けが急速に回復するとともに、米国、エジプト向けが大幅に増加したためである。

輸出先別に見ると、中国向けは、64万9876トン（同32.6%増）と前年同期を大幅に上回り、輸出量全体の6割を占めた。同国向けは、21年12月15日まで約3カ月間の輸出制限がされており、22年2月以降は前年を上回る輸出量となっている。エジプト向けは7万1343トン（同1.8倍）と急増し、中国に次ぐ輸出先となった。同国向けは18年以降減少傾向で推移していたが、再び増加

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合の推移



資料：SECEX

注1：製品重量ベース。

注2：中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。

している。また、20年2月に輸出が再開された米国向けは5万7096トン（同1.3倍）と大幅に増加した。特に21年11月～22年3月にかけては毎月1万トンを超える牛肉が輸出された。

22年肥育牛価格、高値で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2022年8月までの肥育牛価格は、海外需要が堅調な中で飼料費など生産費の増加やインフレの進行などの影響で上昇し、1キログラム当たり20レアル（530円：1レアル=26.49円^{（注）}）を超える高値で推移した（図3）。21年10月には、中国向けなどへの牛肉輸出制限により同17

レアル（450円）程度まで下落したもののその後回復し、22年8月25日時点では同20.90レアル（554円）と高値で推移している。

（注） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2022年8月末TTS相場。

図3 肥育牛価格の推移



資料：CEPEA

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

米 国

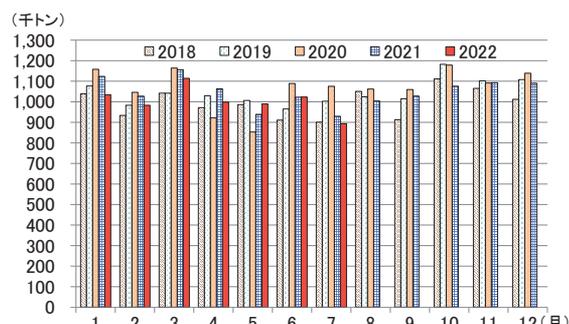
22年上半期豚肉輸出量、ラテンアメリカ向けが好調

7月の豚肉生産量、前年同月比3.9%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年7月の豚肉生産量は89万4000トン（前年同月比3.9%減）と前年同月をやや下回った（図1）。これは、生産コストの高騰などによる肥育豚頭数の減少が要因とされており、この傾向は当面続くものとみられている。

一方で、同省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、豚肉生産量が減少しながらも、22年7月末の豚肉の冷凍在庫量は24万448トン（同20.0%増）と前年同月を大

図1 豚肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注：枝肉重量ベース。

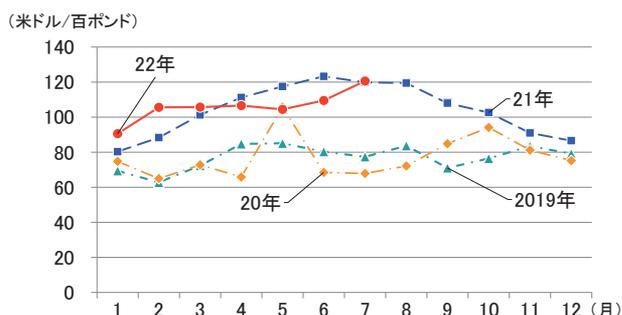
幅に上回った。これは、前年に比べ輸出が減少していることで、輸出向けの在庫の積み増しが影響している。

7月の豚肉卸売価格、前年同月比0.7%高

夏場に向けた季節的な需要が旺盛な中、豚肉供給量の減少により、2022年7月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー）は、100ポンド当たり120.6米ドル（1キログラム当たり371.24円：1米ドル＝139.63円^{（注）}、前年同月比0.7%高）と、2カ月連続で上昇し、21年6月以来の高値を記録した（図2）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

図2 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
注：カットアウトバリュー。

6月の豚肉輸出量、前年同月比5.8%減

USDA/ERSによると、2022年6月の豚肉輸出量は24万900トン(前年同月比5.8%減)とやや減少し、同年1～6月の上半期の累計では142万8400トン(前年同期比17.8%減)と大幅に減少した(表)。中国向け輸出量の大幅な減少が要因であるが、他の主要輸出先については、メキシコ向けの6月の輸出量が、引き続き旺盛な需要などにより8万500トン(前年同月比6.3%増)とかなりの程度増加した。コロンビア向けも1万4600トン(同91.5%増)と大幅に増加し、本年の単月での輸出量としては最多となった。一方で日本向けは4万3300トン(同7.6%減)とかなりの程度減少し、1～6月の累計でも前年同期比11.5%減とかなり大きく減少している。また、6月の韓国向けは2万2900トン(同13.3%増)とかなり大きく増加したが、1～6月の累計では前年同期比4.5%減とやや減少している。上半期のア

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	2022年 (1～6月)	
					前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
メキシコ	75.7	80.5	6.3%	33.4%	524.4	27.1%
日本	46.9	43.3	▲7.6%	18.0%	261.5	▲11.5%
韓国	20.2	22.9	13.3%	9.5%	128.7	▲4.5%
中国・香港	41.3	23.6	▲43.0%	9.8%	125.3	▲68.2%
カナダ	19.0	17.6	▲7.2%	7.3%	110.4	▲13.6%
コロンビア	7.6	14.6	91.5%	6.1%	67.5	11.1%
ドミニカ共和国	7.6	9.7	27.8%	4.0%	57.7	49.0%
その他	4.6	28.6	526.1%	11.9%	153.0	▲44.3%
合計	255.7	240.9	▲5.8%	100.0%	1,428.4	▲17.8%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注：枝肉重量ベース。

アジア向けの減少についてUSDAは、ドル高で推移する為替相場から米国産豚肉の競争力が低下し、スペインやオランダなどEU産冷凍

豚肉へのシフトが進んだことなどが要因と分析している。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

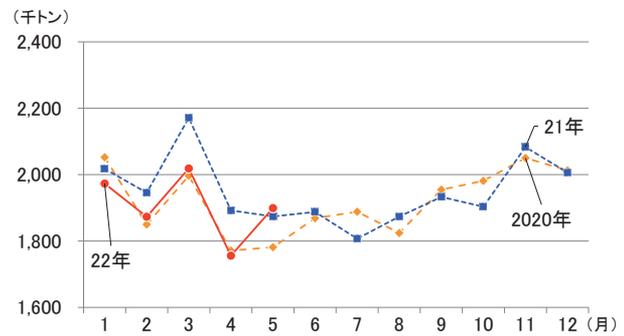
E U

豚枝肉卸売価格は高水準で推移

22年5月の豚肉生産量、前年同月比1.3%増

欧州委員会によると、2022年5月の豚肉生産量（EU27カ国）は189万9020トン（前年同月比1.3%増）と6カ月ぶりに前年同月を上回った（図1、表）。5月は、1頭当たりの枝肉重量が94.0キログラム（同0.4%減）であったものの、と畜頭数が2019万頭（同1.7%増）とわずかに増加したことが生産量の増加に寄与した。

図1 月別豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：枝肉重量ベース。

表 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2021年 5月	2022年 5月	前年同月比 (増減率)	2022年 (1～5月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
スペイン	420	432	2.8%	2,245	2.3%
ドイツ	396	382	▲3.6%	1,896	▲10.4%
フランス	166	180	8.5%	912	▲0.3%
ポーランド	163	148	▲8.8%	771	▲9.1%
デンマーク	135	146	7.9%	719	▲1.8%
オランダ	134	143	7.3%	714	▲1.3%
イタリア	113	119	5.1%	553	▲3.9%
その他	348	349	0.4%	1,710	▲4.7%
合計	1,874	1,899	1.3%	9,520	▲3.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

同月の生産量を主要生産国別に見ると、スペイン（同2.8%増）、フランス（同8.5%増）、デンマーク（同7.9%増）、オランダ（同7.3%増）、イタリア（同5.1%増）が前年同月を上回った。一方でドイツ（同3.6%減）、

ポーランド（同8.8%減）が前年同月を下回った。特にドイツは、12カ月連続で前年同月を下回っている。

英国農業・園芸開発委員会（AHDB）によると、22年1～5月の豚肉生産量が前年

同期比3.8%減となったのは、欧州委員会による短期的需給見通し^(注1)の22年予測(前年比4.7%減)に沿った動向であるとしている。

(注1) 海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003307.html)を参照されたい。

7月の豚枝肉卸売価格は、前年同月比25.8%高

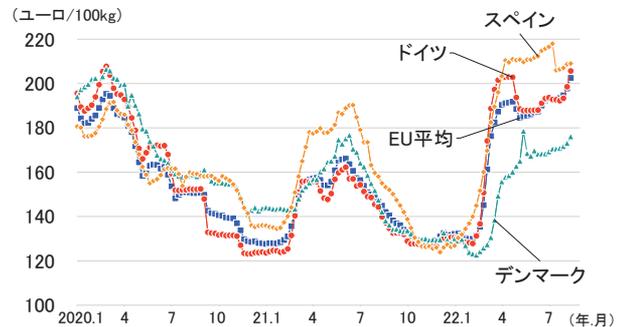
欧州委員会によると、2022年7月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比25.8%高の100キログラム当たり193.10ユーロ(2万7136円:1ユーロ=140.53円^(注2))となった(図2)。

現地報道によると、豚枝肉卸売価格の高騰は、北欧などで需要が回復する一方、豚肉生産量が前年より低水準で推移しているためとしている。また、多くの主要生産国で価格が上昇する中で、スペインは7月に入り下落し

ているが、これは、中国向けの大幅な輸出量の減少が影響したためとしている。

AHDBは、生産資材費は依然として高騰しており、豚枝肉卸売価格が高い水準にあっても、生産者の利益は圧迫されるとしている。

図2 豚枝肉卸売価格の週別推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注1：EU参考価格(CLASS E)。
注2：デンマークの2020年2月17日はデータなし。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

(調査情報部 渡辺 淳一)

中国

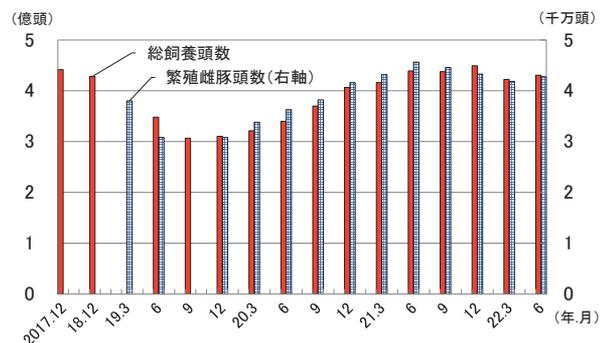
豚肉価格は急激な上昇を見せるも、需給は安定の見込み

繁殖雌豚頭数は前年から減少傾向も4月以降は増頭傾向

中国農業農村部によると、2022年6月末時点の繁殖雌豚頭数は前年同月比6.3%減、前月比2%増の4277万頭となった(図1)。同頭数がピークとなった前年よりかなりの程度減少しているものの、22年4月以降、増加傾向で推移している。これは、同年4月下旬以降、豚肉価格が回復している中で、少しずつ生産意欲が高まってきているためとみられる。なお、同部が最適な繁殖雌豚頭数としている約4100万頭と比較すると、現在の規

模は4.3%上回っている状況にあるが、同部では正常な飼養規模水準内にあるとしている。

図1 豚飼養頭数の推移

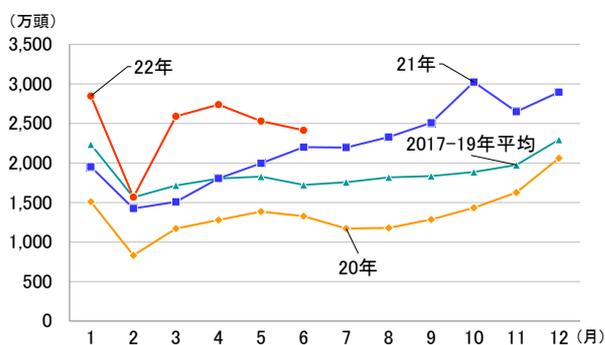


資料：中国国家统计局
注：四半期ごとの公表値。

豚と畜頭数は引き続き高水準で推移も、5月以降は減少傾向

中国国内の豚と畜頭数は引き続き前年同月を上回る水準で推移している中で、中国農業農村部によると、上海などのロックダウンの影響や豚肉価格上昇の期待感から生産者の一部で出荷を控える動きがあるとされ、5月以降、出荷頭数は減少傾向にある（図2）。2022年6月のと畜頭数は2413万頭（前年同月比9.7%増）、同年1～6月の累計では1億4688万頭（前年同期比34.9%増）となり、依然としてコロナ禍以前の水準（17～19年平均）を上回って推移している。また、22年第2四半期（4～6月）の豚肉生産量は1378万トン（同2.4%増）と前年同期をわずかに上回った（中国国家統計局）。

図2 豚と畜頭数の推移



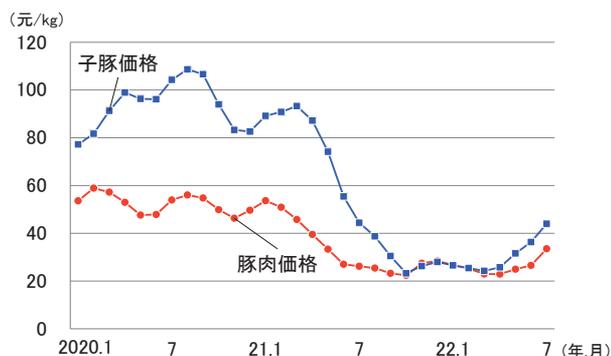
資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

豚肉や子豚価格は急激な上昇を見せるも、継続しない見込み

2022年1月から下落傾向にあった豚肉価格は5月、子豚価格は4月にそれぞれ上昇に転じており、6月以降はさらに上昇している（図3）。7月の子豚価格は前月比21.1%高の1キログラム当たり44元（895円：1元＝

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

20.34円^(注)、豚肉価格は同26.3%高の同33.5元（681円）となった。現地では6月の上海ロックダウン解除などによる需要の回復のほか、生産者間でのさらなる価格上昇への期待の膨らみから、一部の生産者が出荷を先延ばししたとみられ、急激な価格上昇が引き起こされたものとされている。中国政府は根拠のない価格上昇に関する風説が広まることにより、生産者が正しく判断することを困難にしているとし、不当なうわさを広める行為を厳しく規制するとしている。中国国家統計局は豚の飼養規模が正常な水準にあるため、今後も大幅な価格上昇が継続する可能性は低いとみている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

22年1～7月の豚肉輸入量は引き続き大幅減

2022年1～7月の豚肉輸入量は、92万369トン（前年同期比64.1%減）と大幅に減少した（表）。国内のと畜頭数が高水準で推移していることに加え、COVID-19による検疫の強化や暫定税率の見直しなどにより前年を大幅に下回っている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
スペイン	22.0	38.2	93.4	109.8	26.1	▲ 68.2%
ブラジル	15.0	22.2	48.1	54.6	19.9	▲ 34.8%
デンマーク	7.2	16.4	36.0	35.2	8.9	▲ 63.4%
米国	8.6	24.5	69.6	39.8	7.0	▲ 77.6%
カナダ	16.0	17.2	41.1	23.6	6.1	▲ 65.6%
オランダ	8.5	16.0	26.5	27.7	6.0	▲ 72.8%
その他	42.0	64.9	115.8	66.8	18.0	▲ 62.7%
合計	119.3	199.4	430.4	357.4	92.0	▲ 64.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

鶏 肉

米 国

鶏肉卸売価格は下落傾向

1～7月の鶏肉生産量はわずかに増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年7月の鶏肉生産量は167万1000トン（前年同月比1.8%減）とわずかに

に減少したものの、1～7月の鶏肉生産量は1185万3000トン（前年同期比1.0%増）とわずかに増産となった（表1）。これを受けてUSDAは、2022年の鶏肉生産量を前年比1.0%増と予測している。

表1 鶏肉生産量の推移

	2021年 (1～12月)		2022年 7月		2022年 (1～7月)	
		前年比 (増減率)		前年同月比 (増減率)		前年同期比 (増減率)
生産量（千トン）	20,366	0.7%	1,671	▲1.8%	11,853	1.0%
処理羽数（百万羽）	9,211	▲0.2%	758	▲1.5%	5,381	1.0%
生体重量（キログラム/羽）	2.93	0.8%	2.92	▲0.5%	2.92	▲0.0%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：連邦食肉検査済みのもの。
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

卸売価格は依然高騰するも下降基調

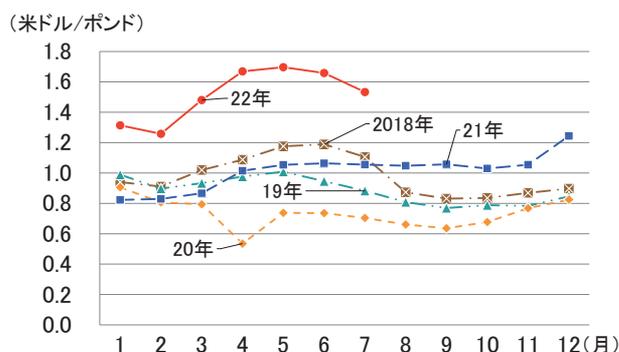
USDA/ERSによると、2022年7月の鶏

肉卸売価格は1ポンド当たり1.53米ドル（1キログラム当たり470.98円：1米ドル＝139.63円^(注)、前年同月比45.2%高）と前

年を大幅に上回っている(図1)。鶏肉価格は、今年に入り平年を大きく上回っているが、これはインフレにより米国の食肉製品が高騰する中で、安価なタンパク源に需要がシフトしたことが一因と考えられる。ただし、卸売価格は季節的動向から下降しており、7月の価格は今年のピークであった5月から9.6%低下した。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

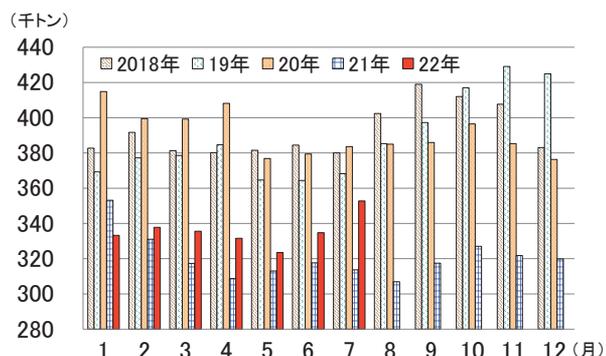
図1 鶏肉の卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

一方、22年7月末の鶏肉冷凍在庫量は35万2730トン(前年同月比12.5%増)と平年より少ないものの、前年よりかなり大きく増加した(図2)。以上の在庫状況と価格動向を踏まえ、USDAは22年第3四半期(7~9月)および第4四半期(10~12月)の価格の見通しを下方修正している。

図2 鶏肉冷凍在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」

注：各月末在庫。

22年上半期鶏肉輸出量は前年をわずかに上回る

USDA/ERSによると、2022年6月の米国の鶏肉輸出量は、27万2395トン(前年同月比2.8%増)と前年同月をわずかに上回った(表2)。これを受けて22年上半期(1~6月)の輸出量は165万378トン(前年同期比0.4%増)と前年同期をわずかに上回った。輸出先別ではメキシコ向けが首位を維持しているが、輸出量はかなり大きく減少している。一方で台湾向けが増加したことで、メキシコの減少分を相殺する形となっている。

USDAは、ここ数カ月、米国の鶏肉価格と対米ドル相場が高止まりしていることから、22年下半期の鶏肉輸出環境は芳しくないとし、通年では前年比1.3%減と予測している。一方で、すでに一部の鶏肉の部位の価格は下がり始めていることから、23年の鶏肉輸出量を同1.5%増と予測している。

表2 米国の輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	2022年	前年同期比
					(1～6月)	(増減率)
メキシコ	60,740	54,505	▲10.3%	20.0%	316,482	▲11.8%
台湾	12,179	27,645	127.0%	10.1%	140,967	64.1%
キューバ	25,928	23,150	▲10.7%	8.5%	136,462	▲16.3%
フィリピン	10,328	17,530	69.7%	6.4%	89,921	▲6.9%
カナダ	14,593	12,496	▲14.4%	4.6%	75,412	0.7%
アンゴラ	5,744	11,086	93.0%	4.1%	57,298	▲6.6%
ベトナム	9,120	10,719	17.5%	3.9%	46,993	▲11.1%
その他	126,391	115,264	▲8.8%	42.3%	786,843	4.9%
合計	265,024	272,395	2.8%	100.0%	1,650,378	0.4%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 上村 照子)

ブラジル

22年鶏肉輸出量は増加傾向で推移、輸出単価は大幅高

22年1～6月の鶏肉生産量、前年同期比1.5%増

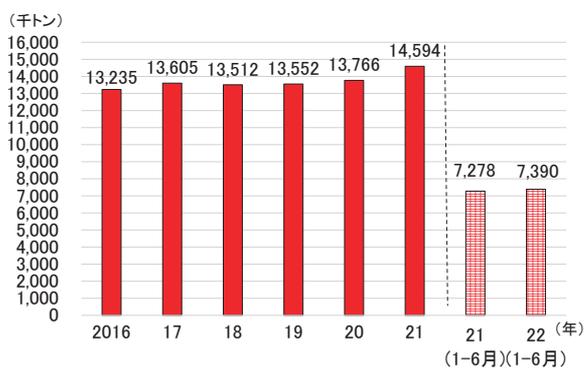
ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2022年1～6月の鶏肉生産量は739万トン（前年同期比1.5%増）と前年同期をわずかに上回った（図1）。同国の年間鶏肉生産量は21年まで3年連続で増加しており、22年

も増加傾向が続いている。22年は飼料価格高により生産コストが上昇する中で、収益性の低下やインフレによる国内消費の停滞が見られるものの、同国産鶏肉に対する海外からの需要が堅調であることが増加の要因とみられる。

22年1～7月の鶏肉輸出量は前年同期比5.6%増

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2022年1～7月の鶏肉輸出量は257万4213トン（前年同期比5.6%増）と前年同期をやや上回った（表）。米ドルに対するレアル安の為替相場に加え、アジア、EUおよび北米などで発生した高病原性鳥インフルエンザ、ウクライナ情勢の影響などにより多くの地域で動物性タンパク質の不足が生じたためとみられる。また、堅調な海外需要を反映して、輸出単価（米ドルベース）は

図1 鶏肉生産量の推移



資料：IBGE

注：2022年は速報値。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2021年（1～7月）			2022年（1～7月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	377,164	716,648	1,900	331,279	756,778	2,284	▲12.2%	5.6%	20.2%
アラブ首長国連邦	181,066	301,708	1,666	282,239	599,106	2,123	55.9%	98.6%	27.4%
日本	230,054	423,879	1,843	231,902	516,788	2,228	0.8%	21.9%	20.9%
サウジアラビア	254,422	445,020	1,749	200,386	500,606	2,498	▲21.2%	12.5%	42.8%
南アフリカ共和国	182,279	122,320	671	177,378	122,940	693	▲2.7%	0.5%	3.3%
フィリピン	99,932	92,024	921	138,582	157,522	1,137	38.7%	71.2%	23.4%
韓国	68,111	118,837	1,745	101,148	216,374	2,139	48.5%	82.1%	22.6%
メキシコ	70,687	103,995	1,471	95,772	230,196	2,404	35.5%	121.4%	63.4%
その他	973,027	1,450,719	1,491	1,015,527	1,925,913	1,896	4.4%	32.8%	27.2%
合計	2,436,742	3,775,150	1,549	2,574,213	5,026,224	1,953	5.6%	33.1%	26.0%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

同26.0%高と大幅に上昇した。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは33万1279トン（同12.2%減）と前年同期をかなり大きく下回った。特に7月の同国向け輸出量は3万7562トン（前年同月比40.3%減）と大幅に減少し、アラブ首長国連邦向けを下回り第2位となった。この減少要因の一つとして、ブラジル産鶏肉の価格上昇があるとみられる。アラブ首長国連邦向けは28万2239トン（前年同期比55.9%増）と大幅に増加し、中国に次ぐ輸出先となった。また、日本向けは23万1902トン（同0.8%増）と前年同期をわずかに上回った。一方、サウジアラビア向けは20万386トン（同21.2%減）と大幅に減少した。これは同国が21年5月、ブラジル産輸入鶏肉からサルモネラ汚染が確認されたとして11カ所の鶏肉処理場からの輸入を停止したためである。このほか、メキシコ向けは9万5772トン（同35.5%増）と大幅に増加した。同国では21年6月、自由貿易協定を結んでいる米国、カナダ以外の国を対象に新たな輸入枠として3万トンを設定したこと、また、22年5月にインフレ対策として輸入関税の一時停止措置を講じたこと、さ

らに、前述の米国での高病原性鳥インフルエンザの影響から米国産鶏肉の輸入量が減少したことなどが要因とみられる。

鶏肉卸売価格、鶏肉供給量の減少などにより高水準で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、ブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州、名目価格）は、堅調な需要を背景に2020年5月ごろから上昇傾向で推移し、21年9月中旬には統計が公表された04年以降で最高値となる1キログラム当たり8.57リアル（227円：1リアル＝26.49円^{（注）}）を記録した（図2）。その後は

図2 サンパウロ州の鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日別の推移



資料：CEPEA

価格高騰から需要が減退し、21年10月以降、価格は下落傾向に転じた。しかし、22年2月以降は、ウクライナ情勢や米国での高病原性鳥インフルエンザの発生などによる供給量の減少に加え、不安定な飼料供給に起因する生産コストの上昇などを反映して価格は再び

上昇に転じ、8月下旬には同8.00リアル（212円）と高水準の状況が続いている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末のTTS相場。

（調査情報部 井田 俊二）

中国

22年上半期の生産量はわずかに減少、価格は上昇基調

22年上半期の家きん肉生産量は前年比微減

中国国家统计局によると、2022年上半期（1～6月）の家きん総出荷羽数は69億1000万羽（前年同期比0.7%減）、生産量は1067万トン（同0.8%減）となった。おおむね安定的な生産が継続しているが、各地でCOVID-19の新規感染者数が増加し始めた3月ごろは、食鳥処理場の稼働率が低下して

いたとされている。

直近の米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の見通しによると、22年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は前年比2.7%減の1430万トンとされている（表1）。

（注1） 同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html）2 肉用鶏産業の概要（1）家きん産業における肉用鶏産業の位置付けを参照されたい。

表1 中国の鶏肉需給の推移

（単位：万トン）

	2019年	2020年	2021年	2022年 （予測）
生産量	1,375	1,460	1,470	1,430
輸入量	58	100	79	65
輸出量	43	39	46	55
国内消費量	1,390	1,521	1,503	1,440

資料：米国農務省海外農業局（USDA/FAS）

注1：調理用換算（Ready to Cook Equivalent）。

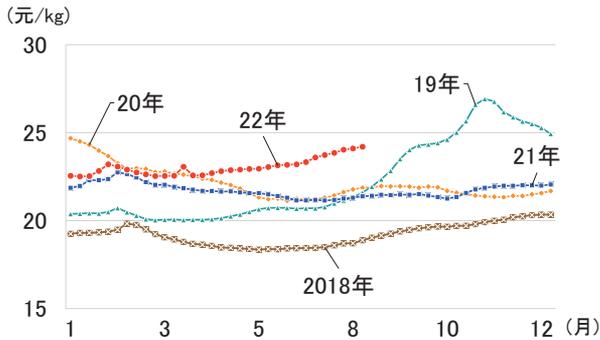
注2：もみじ（鶏足）は含まない。

鶏肉価格は豚肉価格同様に上昇傾向

中国農業農村部によると、2022年8月第2週の鶏肉市場価格は、1キログラム当たり24.2元（492円：1元＝20.34円^{（注2）}、前年同期比13.2%高）となり、22年4月以降、おおむね上昇基調にある（図）。22年上半期

の価格動向を見ると、春節（22年は1月31日～2月6日）の価格上昇以降、COVID-19の拡大により価格は落ち着いていたものの、4月以降は豚肉価格の高騰に合わせて鶏肉価格も上昇傾向にある。特に6月以降は、COVID-19の拡大状況の改善に伴う食肉需要の回復が価格をけん引しているとされる。

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部

世界的な飼料価格の高騰により生産コストは増加しているものの、豚肉価格に合わせて鶏肉価格も上昇していることから、生産者の経営収支は改善しているとされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

22年1～7月の鶏肉輸入量は前年比やや減

2022年1～7月の冷凍鶏肉輸入量は、前年同期比5.1%減の77万9050トンとなった(表2)。減少の要因として、アフリカ豚熱からの回復途上にあった昨年前半ほどの食肉輸入需要はない状況下で、3～5月を中心としたCOVID-19の再拡大や、輸入貨物の検疫強化などが影響したとされている。輸入先別に見ると、ブラジルやロシア産は前年を上回ったものの、米国、タイ、アルゼンチン産は前年を下回った。

表2 輸入先別輸入量の推移(冷凍鶏肉)

(単位：万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	42.1	53.7	68.6	65.1	35.0	1.6%
米国	—	—	40.9	44.0	22.4	▲19.4%
ロシア	—	3.4	14.5	11.9	7.3	8.6%
タイ	1.7	7.1	11.7	10.4	3.8	▲37.9%
アルゼンチン	4.6	7.7	8.7	7.5	3.7	▲5.6%
その他	1.7	5.4	7.1	6.9	5.7	84.3%
合計	50.1	77.4	151.4	145.7	77.9	▲5.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

22年1～7月の鶏肉調製品輸出量は全面的に増加

2022年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は、18万1817トン(前年同期比26.2%増)と前年を大幅に上回った(表3)。コロナ禍

を経て世界的に経済活動再開の兆しが見え始める中で、食肉価格の高騰を背景に主要な食肉の中でも手ごろな価格帯の鶏肉に需要がシフトする動きがあるとされている。特に、鶏肉輸入を伸ばしている欧州への輸出量が大幅に増加している。

表3 鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	21.0	19.3	16.1	18.0	11.8	21.3%
香港	2.6	2.9	3.0	3.7	2.1	2.8%
オランダ	1.1	1.3	1.0	1.4	1.2	75.4%
フィリピン	0.0	0.0	0.4	1.0	0.6	15.6%
英国	0.7	0.9	0.6	0.8	1.0	186.4%
その他	1.5	1.8	1.6	2.0	1.5	37.2%
合計	26.9	26.1	22.7	27.0	18.2	26.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

EU

22年上半期の生乳出荷量は前年同期を下回る

6月の生乳出荷量、前年同月比2.2%減

欧州委員会によると、2022年6月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1226万9050トン（前年同月比2.2%減）と前年同月をわずかに下回った（表）。

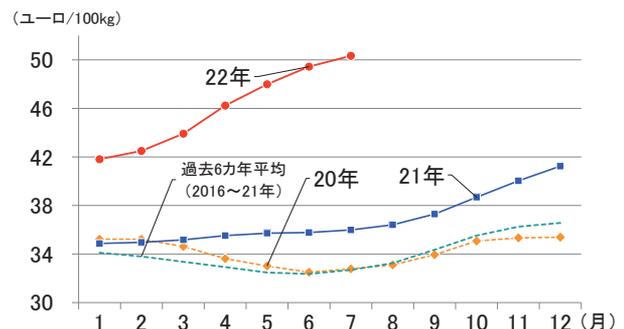
同月の生乳出荷量を国別に見ると、オランダ（同1.5%増）、ポーランド（同1.2%増）がわずかに増加した一方で、出荷量上位のフランス（同1.4%減）、アイルランド（同0.6%減）がわずかに減少し、ドイツ（同0.2%減）、イタリア（同0.3%増）は前年同月並みとなった。この結果、22年上半期（1～6月）の生乳出荷量は前年同期を1.2%下回ることとなった。生乳出荷量減少の要因としては、飼料をはじめとする生産資材費の高騰、熱波や干ばつの影響などが挙げられる。

また、22年7月の生乳取引価格（EU27

カ国の平均）は、100キログラム当たり50.33ユーロ（7073円：1ユーロ＝140.53円^{注1}、前年同月比39.8%高）と依然として最高値を更新しており、17カ月連続で前年同月を上回っている（図1）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

図1 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	2022年 (1～6月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,710	2,704	▲ 0.2%	16,153	▲ 1.5%
フランス	2,032	2,003	▲ 1.4%	12,516	▲ 1.4%
オランダ	1,128	1,145	1.5%	6,906	▲ 1.5%
アイルランド	1,099	1,092	▲ 0.6%	4,781	▲ 0.6%
ポーランド	1,078	1,091	1.2%	6,502	1.8%
イタリア	1,076	1,079	0.3%	6,581	▲ 2.3%
スペイン	630	614	▲ 2.6%	3,766	▲ 0.9%
デンマーク	477	479	0.4%	2,844	0.5%
ベルギー	372	383	2.8%	2,276	0.9%
その他	1,940	1,679	▲ 13.5%	11,254	▲ 2.6%
合計	12,543	12,269	▲ 2.2%	73,579	▲ 1.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

22年上半期、粉乳の輸出量、前年同期比大幅減

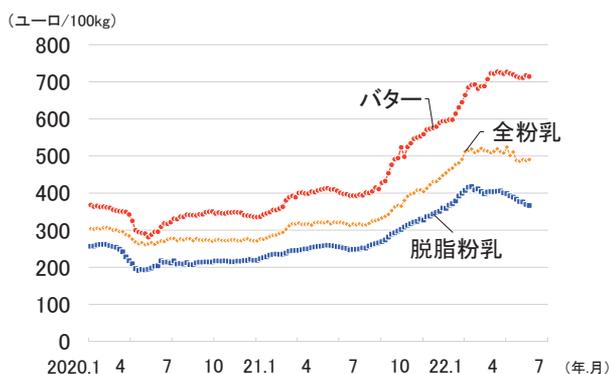
欧州委員会によると、英国を除くEU域外向けの2022年上半期の主要な乳製品の輸出量は、バターが9万737トン（前年同期比2.6%減）、チーズが46万2461トン（同3.5%減）と前年同期を下回った。また、脱脂粉乳は33万4905トン（同19.3%減）、全粉乳は12万322トン（同16.7%減）といずれも前年同期を大幅に下回った。

この輸出量の減少は、中国向け減少の影響が大きく、チーズは前年同期比21.1%減少し、脱脂粉乳は同40.0%減となった。中国国内では、生乳生産量が増加する中で乳製品国際価格の高騰により国産志向が高まっていることに加え、COVID-19による需要低迷の影響から輸入量が減少傾向にあるという（注2）。

（注2）『畜産の情報』2022年9月号「主要乳製品輸入量、全品目で減少」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002374.html）を参照されたい。

また、乳製品価格（8月21日の週）は、バターが100キログラム当たり714ユーロ（10万338円）と高値で推移している一方、全粉乳が同490ユーロ（6万8860円）、脱脂粉乳が同367ユーロ（5万1575円）とやや下落し、落ち着きを見せている（図2）。

図2 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

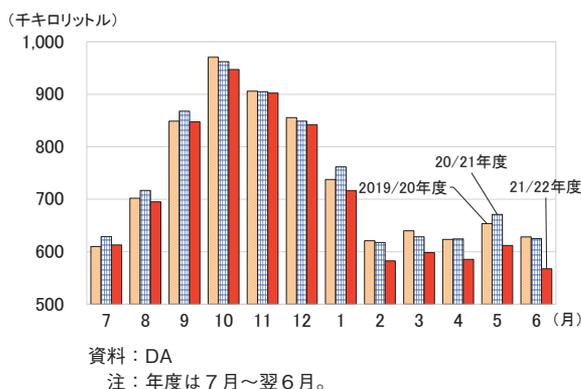
（調査情報部 渡辺 淳一）

21/22年度の生乳生産量、前年度よりやや減少

生乳生産量は13カ月連続で減少

デーリー・オーストラリア (DA) によると、2022年6月の生乳生産量は全州で減少したことにより、56万7388キロリットル（58万4410トン相当、前年同月比9.2%減）とかなりの程度減少した（図1）。

図1 月別生乳生産量の推移



この結果、21/22年度（7月～翌6月）の累計生乳生産量は、前年度比3.9%減の850万9488キロリットル（876万4772トン相当）となり、DAが5月に下方修正（注）した同年度の生乳生産量見込み857万キロリットル（883万トン相当）をさらに下回る結果となった（図2）。この要因としては、総じて天候に恵まれた地域が多かったものの、投入コストの増加やCOVID-19に起因する労働力不足などがマイナス要因として働いたことが挙げられる。また、これによりDAが本年5月に予測した22/23年度の生乳生産量855万キロリットル（881万トン相当、同時点の21/22年度予測比0.2%減）について、今後、21/22年度の実績である850万キロリットル以下に引き下げられる

図2 年度別生乳生産量の推移



可能性が強まってきた。

なお、米国農務省（USDA）は7月21日に発表した「Dairy：World Markets and Trade」において、22年（1～12月）の豪州の生乳生産量を870万トン（前年比3%減）と見込んでいる。この理由としてUSDAは、乳価などのプラス要因はあるものの、土地価格の高騰による離農や肉用牛生産への転換による飼養頭数の減少、労働力不足などで乳量が制限されることを挙げている。

（注）『畜産の情報』2022年8月号「乳価は好調も、生乳生産量は低迷」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002319.html）を参照されたい。

バターおよびバターオイル、年度累計輸出量は減少も同輸出額は増加

DAが発表した2022年6月の主要乳製品4品目の輸出量は、中国やタイ向けが好調であった脱脂粉乳を除く3品目がいずれも減少した（表、図3）。特に、バターおよびバターオイルは、5カ月連続して前年同月を下回っており、21/22年度累計輸出量でも前年度を下回った。

21/22年度の輸出量の特徴としては、22

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2021年 6月	2022年 6月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7月～翌6月)		【参考：輸出額】 前年度比 (増減率)
				前年度比 (増減率)	前年度比 (増減率)	
脱脂粉乳	8,432	11,922	41.4 %	149,760	21.8 %	59.7 %
全粉乳	8,096	5,149	▲ 36.4 %	63,171	16.6 %	21.4 %
バターおよびバターオイル	2,008	1,264	▲ 37.1 %	22,783	▲ 3.8 %	21.3 %
チーズ	14,071	12,835	▲ 8.8 %	157,301	2.5 %	11.7 %

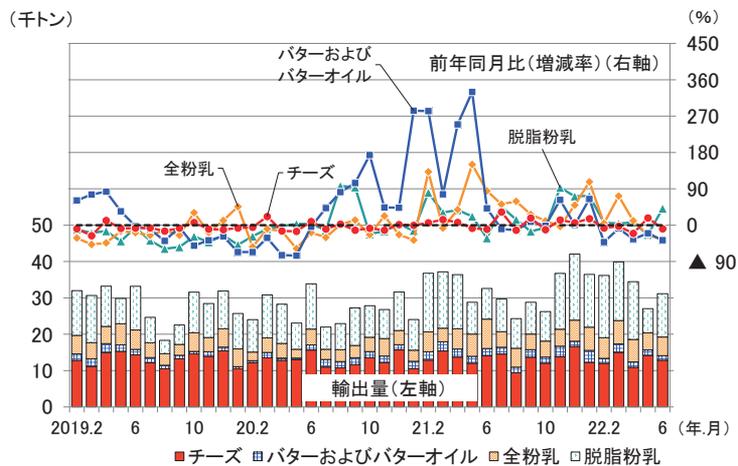
資料：DA
注：製品重量ベース。

年2月以降のバターおよびバターオイルとチーズの不振が挙げられる。この要因として、主要輸出先である中国において、COVID-19の再拡大に伴うロックダウンにより、これらの主要仕向け先であるレストランやベーカリーの営業停止が相次ぎ輸入需要が低下したこと、また、乳製品国際価格の高騰により

輸入製品の価格優位性が低下して国産志向が高まったことなどが挙げられる。

なお、同年度の輸出額に注目すると、乳製品国際相場の上昇からバターおよびバターオイルを含めた全品目で前年度を大きく上回っている。

図3 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

22/23年度の生乳生産量、前年割れの見込み

7月の生乳生産量、前年同月を下回る

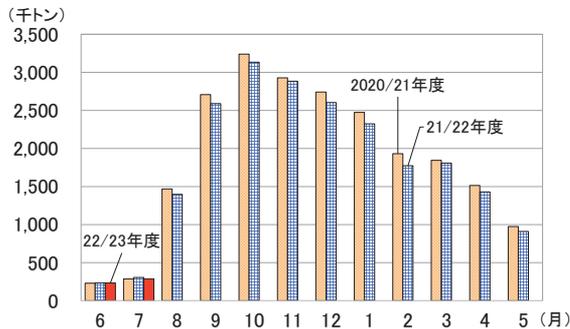
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2022年7月の生乳生産量は28万8000トン（前年同月比5.7%減）と前年同月をやや下回った（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、7月に続いた降雨により、牧草地が泥状となったことで牧草成長率が低下したことを挙げている。また、8月にニュージーランド全域を襲った嵐により、牧草の生育に遅れが見られ、その影響が9～10月の搾乳期に現れることから、22/23年度（6月～翌5月）の

生乳生産量についても、前年比2.2%の減少が見込まれている。

乳製品輸出量、主要3品目が前年同月を上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2022年7月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目でいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、脱脂粉乳は、最大の輸出先である中国向けをはじめ、フィリピンやインドネシアなど東南アジア向けが増加したことで、全体でも前年同月を大幅に上回った。全粉乳は、最大の輸出先である中国向けが前年同月比3割程度落ち込んだものの、主要輸出先のインドネシア向けが同2倍程度増加したことで、全体ではわずかに増加した。バターおよびバターオイルは、最大の輸出先である中国向けをはじめ、輸出先第2位の豪州向けがそれぞれ増加したことで、全体でも大幅に増加した。一方、チーズは、輸出量上位の中国、日本、豪州、インドネシア向けがそれぞれ減少したことで、全体でも大幅に減少した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

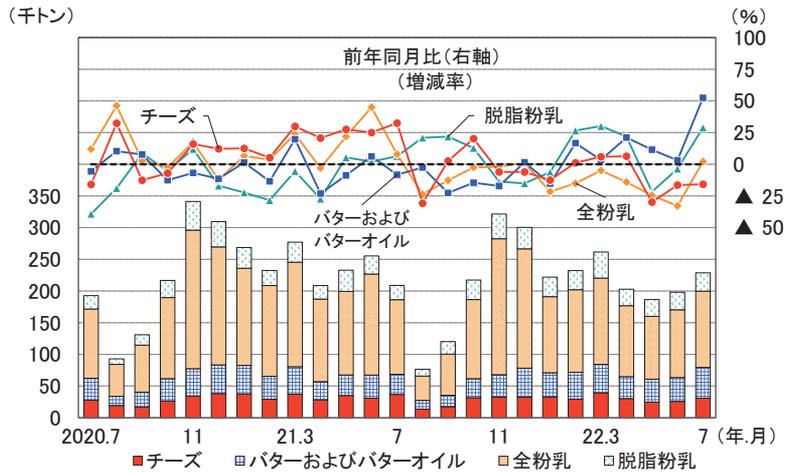
品目	2021年 7月	2022年 7月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	22,454	28,925	28.8 %
全粉乳	117,824	120,252	2.1 %
バターおよびバターオイル	31,823	48,524	52.5 %
チーズ	36,743	30,929	▲ 15.8 %

資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



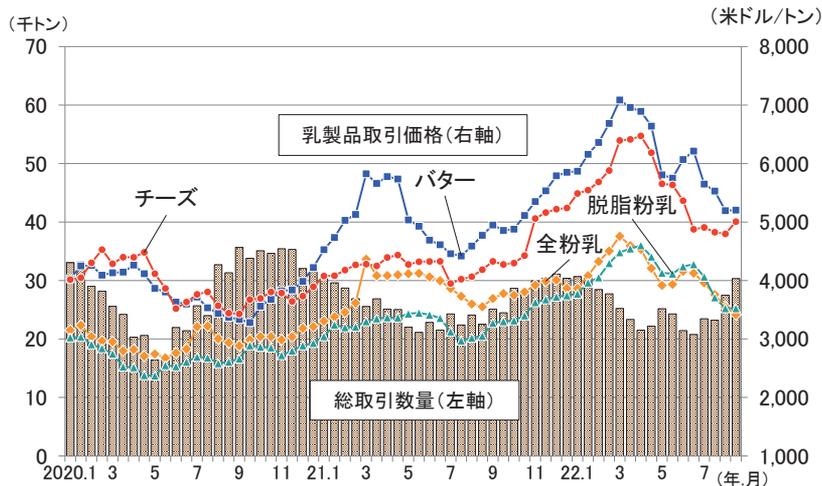
資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

GDT価格、全粉乳を除く主要3品目が堅調に推移

2022年8月16日に開催されたGDT^(注1)の1トン当たりの平均取引価格は、全粉乳を除く主要3品目で前回並みまたは前回を上回る結果となった(図3)。市場関係者は、長引くCOVID-19の影響で、中国での乳製品需要が低迷していることなどから、主要4品目すべてで価格下落を予測していたが、これに反する結果となった。品目別に見ると、脱脂粉乳は東南アジアからの引き合いが強かつ

たものの、北アジア^(注2)の応札が前回の3分の1程度まで減少し、価格は前回並みとなった。全粉乳は北アジアからの引き合いが強かったものの、アフリカからの引き合いが弱まったため、価格はやや下落した。バターは、北アジアの引き合いが弱まったものの、東南アジアや中東からの買い付けが増加したため、全体では前回並みとなった。また、チーズは、中東や北アジアからの引き合いが強まったことで価格は上昇し、小幅な上昇を除けば、22年3月以来の本格的な価格上昇となった。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

(注1) グローバルデイトレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(注2) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 工藤 理帆)

飼料穀物

世界

22/23年度の世界のトウモロコシ、期末在庫は前年度並みの見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年8月12日、22/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億7961万トン（前年度比3.2%減）と前月から629万トン下方修正され、前年度をやや下回ると見込まれている。地域別に見ると、7月下旬の降雨により単収の増加が見込まれるウクライナのほか、ロシアなどで生産量が前月から上方修正されたが、米国やEUで減産が見込まれ、特にEU各地で猛暑と乾燥により作柄の見通しが悪く、生産量は6000万トン（同15.5%減）と前月から800万トン下方修正された。その他の主要国の生産量はいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7978万トン（同0.7%増）と前月から270万トン上方修正され、前年度からわずかな増加が見込まれている。地域別に見ると、EUは減産を背景に前

月から300万トン上方修正され、1900万トン（同18.8%増）と大幅な増加が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億8477万トン（同1.3%減）と前月から47万トン下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。地域別に見ると、ウクライナやロシアで前月から上方修正されたが、米国やEUで下方修正された。最大の消費国である中国は2億9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8562万トン（同7.4%減）と前月から305万トン上方修正されたものの、前年度からかなりの程度減少が見込まれている。地域別に見ると、米国で63万トン、EUで200万トン前月から下方修正された。一方で、ロシアで20万トン、ウクライナで350万トン上方修正されたことで、これが吸収される形となった。

この結果、期末在庫は3億668万トン（同1.7%減）と前月から626万トン下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2022年8月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2020/21年度	2021/22年度	2022/23年度		
		(推計値)	(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	48.76	31.36	38.35	38.86	23.9%
生産量	358.45	383.94	368.44	364.73	▲ 5.0%
輸入量	0.62	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	306.69	314.85	309.13	308.62	▲ 2.0%
輸出量	69.78	62.23	60.96	60.33	▲ 3.1%
期末在庫	31.36	38.86	37.33	35.27	▲ 9.2%
アルゼンチン					
期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	26.3%
生産量	52.00	53.00	55.00	55.00	3.8%
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.70	14.00	14.00	2.2%
輸出量	40.94	39.00	41.00	41.00	5.1%
期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.0%
ブラジル					
期首在庫	5.33	4.15	4.65	4.65	12.0%
生産量	87.00	116.00	126.00	126.00	8.6%
輸入量	2.85	2.00	1.30	1.30	▲ 35.0%
消費量	70.00	73.00	77.00	77.00	5.5%
輸出量	21.02	44.50	47.00	47.00	5.6%
期末在庫	4.15	4.65	7.95	7.95	71.0%
ウクライナ					
期首在庫	1.48	0.83	6.77	6.27	7.6倍
生産量	30.30	42.13	25.00	30.00	▲ 28.8%
輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	-
消費量	7.10	12.20	10.70	11.70	▲ 4.1%
輸出量	23.86	24.50	9.00	12.50	▲ 49.0%
期末在庫	0.83	6.27	12.07	12.07	92.5%
中国					
期首在庫	200.53	205.70	210.24	210.24	2.2%
生産量	260.67	272.55	271.00	271.00	▲ 0.6%
輸入量	29.51	23.00	18.00	18.00	▲ 21.7%
消費量	285.00	291.00	295.00	295.00	1.4%
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	205.70	210.24	204.22	204.22	▲ 2.9%
世界計					
期首在庫	307.46	292.89	312.28	311.84	6.5%
生産量	1,129.44	1,218.76	1,185.90	1,179.61	▲ 3.2%
輸入量	185.22	178.58	177.08	179.78	0.7%
消費量	1,144.02	1,199.80	1,185.24	1,184.77	▲ 1.3%
輸出量	182.61	200.44	182.57	185.62	▲ 7.4%
期末在庫	292.89	311.84	312.94	306.68	▲ 1.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

南米での生産増などから大豆期末在庫は1億トン台の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年8月12日、22/

23年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

表 主要国の大豆需給見通し（2022年8月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	2021/22年度		2022/23年度		前年度比 (増減率)
		(推計値)	(7月予測)	(8月予測)		
米国	期首在庫	14.28	6.99	5.85	6.13	▲ 12.3%
	生産量	114.75	120.71	122.61	123.30	2.1%
	輸入量	0.54	0.41	0.41	0.41	0.0%
	消費量	58.26	60.01	61.10	61.10	1.8%
	輸出量	61.67	58.79	58.11	58.65	▲ 0.2%
	期末在庫	6.99	6.13	6.27	6.66	8.6%
ブラジル	期首在庫	20.42	29.40	22.46	22.71	▲ 22.8%
	生産量	139.50	126.00	149.00	149.00	18.3%
	輸入量	1.02	0.55	0.75	0.75	36.4%
	消費量	46.68	50.00	49.50	50.25	0.5%
	輸出量	81.65	80.00	89.00	89.00	11.3%
	期末在庫	29.40	22.71	30.36	29.86	31.5%
アルゼンチン	期首在庫	26.65	25.06	22.10	22.45	▲ 10.4%
	生産量	46.20	44.00	51.00	51.00	15.9%
	輸入量	4.82	3.40	4.80	4.80	41.2%
	消費量	40.16	40.55	41.00	41.00	1.1%
	輸出量	5.20	2.25	4.70	4.30	91.1%
	期末在庫	25.06	22.45	24.95	25.70	14.5%
中国	期首在庫	24.61	31.16	30.74	30.74	▲ 1.3%
	生産量	19.60	16.40	17.50	18.40	12.2%
	輸入量	99.76	90.00	98.00	98.00	8.9%
	消費量	93.00	87.00	95.00	95.00	9.2%
	輸出量	0.07	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	31.16	30.74	30.56	31.46	2.3%
世界計	期首在庫	94.66	99.88	88.73	89.73	▲ 10.2%
	生産量	368.44	352.74	391.40	392.79	11.4%
	輸入量	165.50	153.39	166.12	166.22	8.4%
	消費量	315.41	313.79	327.13	327.77	4.5%
	輸出量	164.70	153.25	168.89	169.08	10.3%
	期末在庫	99.88	89.73	99.61	101.41	13.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

これによると、世界の生産量は3億9279万トン（前年度比11.4%増）と前月から139万トン上方修正された。うち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに続く米国は単収の増加を反映し69万トン、大豆生産を推奨する中国は作付面積の拡大から90万トンそれぞれ上方修正された。また、米国の単収は1エーカー当たり51.9ブッシェル（1ヘクタール当たり3258キログラム^(注)）となり、16/17年度に記録した同52.0ブッシェル並みの高い水準が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億6622万トン（同8.4%増）と前月から10万トン上方修正された。最大の輸入国である中国は、国内生産の増加が見込まれる中で前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2777万トン（同4.5%増）と前月から64万トン上方修正された。うち、最大の消費国で

ある中国は9500万トンと前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億6908万トン（同10.3%増）と前月から19万トン上方修正された。うち、最大の大豆輸出国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに続く米国が生産量の増加見込みから54万トン上方修正されたことが反映されている。

この結果、期末在庫は1億141万トン（同13.0%増）と前月から180万トン上方修正された。前年度の期末在庫は、南米での干ばつなどによる減産などから15/16年度以来となる8000万トン台に落ち込んだが、22/23年度は南米での増産予測から18/19年度以来の1億トン台が見込まれている。

（注） 1ブッシェルを25.401キログラム、1エーカーを0.4047ヘクタールとして換算。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

22/23年度の米国トウモロコシ、在庫率は10%を割り込む見込み

USDA/WAOBIは2022年8月12日、22/23年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、単収の減少予測を受けて143億5900万ブッシェル（3億6473万トン^(注1)、前年度比5.0%減）と前月から1億4600万ブッシェル（371万トン）下方修正され、前年度からやや減少すると見込まれている。

消費量は、121億5000万ブッシェル（3億862万トン、同2.0%減）と前月から2000万ブッシェル（51万トン）下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。内訳を見ると、前年度に比べ、グルコースやデキスト

ロースなどのその他工業向けの増加が見込まれる中、トウモロコシの減産を背景に飼料など向けが減少すると予測されている。

輸出量は、23億7500万ブッシェル（6033万トン、同3.1%減）と前月から2500万ブッシェル（64万トン）下方修正され、前年度からの減少幅が拡大すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、消費量よりも生産量の減少幅が大きかったことから13億8800万ブッシェル（3525万トン、同9.3%減）と前月から8200万ブッシェル（208万トン）下方修正され、前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

また期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は9.6%（同0.7ポイント減）と、10%を切ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり6.65米ドル（929円。1キログラム当たり36.6円：1米ドル＝139.63円^(注2)）と前月か

ら据え置かれ、前年度からかなり大きく上昇し、12/13年度に記録した同6.89米ドル以来の高値が予測されている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年8月12日米国農務省公表）

区分	-単位-	2020/21年度	2021/22年度 (推計値)	2022/23年度			前年度比 (増減率)
				(7月予測)	(8月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	90.7	93.4	89.9	89.8	36.3 (百万ヘクタール)	▲3.9%
収穫面積	(百万エーカー)	82.3	85.4	81.9	81.8	33.1 (百万ヘクタール)	▲4.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	171.4	177.0	177.0	175.4	11.0 (トン/ヘクタール)	▲0.9%
生産量	(百万ブッシェル)	14,111	15,115	14,505	14,359	364.73 (百万トン)	▲5.0%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	25	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,510	1,530	38.85 (百万トン)	23.9%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,055	16,375	16,040	15,913	404.21 (百万トン)	▲2.8%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,074	12,395	12,170	12,150	308.62 (百万トン)	▲2.0%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,603	5,600	5,350	5,325	135.26 (百万トン)	▲4.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,471	6,795	6,820	6,825	173.36 (百万トン)	0.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,033	5,350	5,375	5,375	136.53 (百万トン)	0.5%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,747	2,450	2,400	2,375	60.33 (百万トン)	▲3.1%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,821	14,845	14,570	14,525	368.95 (百万トン)	▲2.2%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,530	1,470	1,388	35.25 (百万トン)	▲9.3%
期末在庫率	(%)	8.3	10.3	10.1	9.6		0.7ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.53	5.95	6.65	6.65	36.6 (円/kg)	11.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

中国

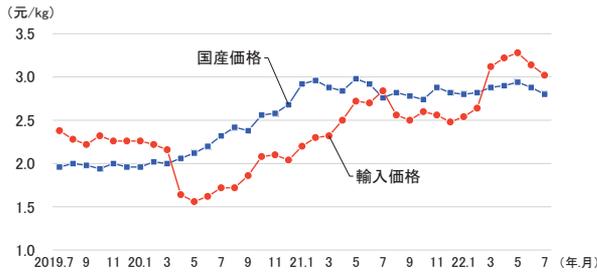
トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需給の緩みから弱含みで推移

中国農業農村部は8月19日、「農産物需給動向分析月報（2022年7月）」を公表した。この中で、2022年7月の国産トウモロコシ価格は、2カ月連続して下落傾向で推移して

いる（図1）。国内のトウモロコシ需給の動向を見ると、供給面では、7月は降雨が多く保管費用と輸送費がいずれも上昇したことで、穀物保有者の多くが積極的に販売しており、市場への供給量は増加している。一方で需要面は、末端需要者の在庫水準が高く、トウモロコシ加工企業の多くがメンテナンスの

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

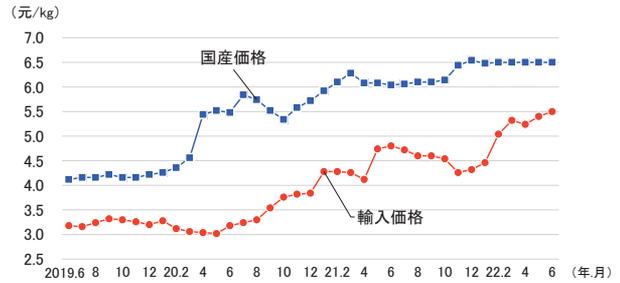
ために工場を閉鎖したことで、供給の過剰から需給は全体的に緩んでいる。このため、短期的には国産価格は弱含みでの推移が予想されるが、大きく下落する可能性は低いとみられている。

主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、22年7月が1キログラム当たり3.02元（61円：1元＝20.34円^{（注）}）となった。同価格は、国産価格を下回っていた同年2月の価格に比べ1割を超える上昇を維持しつつも、前月に続き下落している。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同2.80元（57円）に比べて同0.22元（4円）高となり、3月に逆転した国産と輸入との価格差は縮まっている。

国産大豆価格、供給量の制約から高値安定で推移

2022年7月の国産大豆価格は、前月と同じく高値安定で推移している（図2）。国内の大豆の需給動向を見ると、7月は季節的に消費の落ち込み時期となるが、穀物保有者の在庫水準が低い中で市場供給量は減少してお

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

り、国家備蓄在庫の放出が引き続き行われているものの、緩和までには至っていない。この先も市場供給量が先細りするため、新穀が供給されるまでの間は高止まりでの推移が予測されている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、7月が1キログラム当たり6.16元（125円、前年同月比9.7%高）と引き続き高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.52元（133円、同7.5%高）と同じく高い水準で推移している。国産大豆と輸入大豆との価格差は、大豆国際相場下落などから拡大し、同1.60元（33円）となった。

このような中で、大豆の輸入量は高い輸入量を記録した前年から減少しつつも比較的高い水準で推移している。22年（1～6月）の輸入量は4628万トン（前年同期比5.4%減）、輸入額は世界的な穀物相場高騰の影響から同18.0%増の299億7700万米ドル（4兆1857億円：1米ドル＝139.63円^{（注）}）と報告されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年8月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）